

うひはたぶみ (初機踏)

H.A.M.A.木綿庵だより

第50号

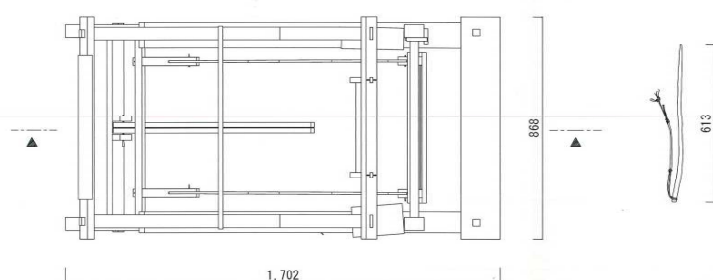
2021(令和3)年2月26日

(編集発行 梅田正之 090-5042-7775)

天理参考館の大和機

— 県内外他機との比較が容易に —

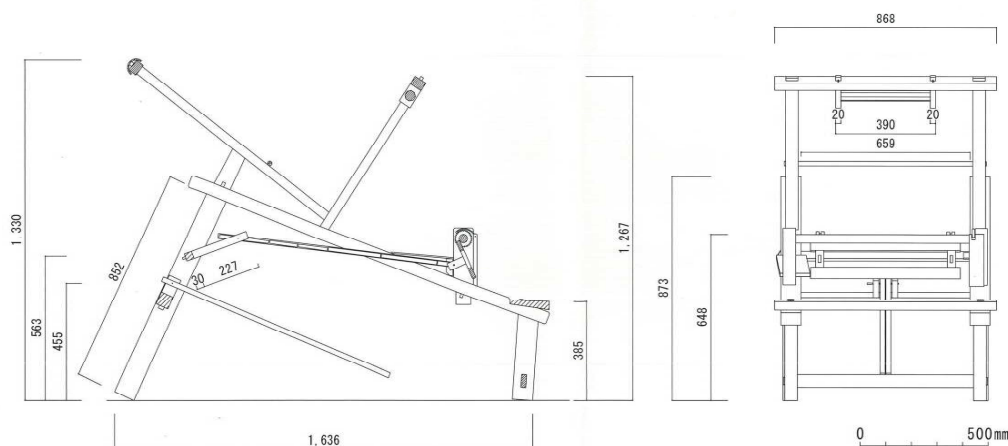
昨年末の2020年12月22日に、天理大学附属天理参考館様の許可をいただき、館蔵品である桜井市元農家旧蔵の大和機の熟覧、調査を実施させていただきました。今回掲出の図面は、その際にご協力をいただいた一級建築士の方に製図をお願いしたものです。これによって県内外他機との比較が容易になりました。



天理参考館蔵
桜井市元農家旧蔵大和機
(登録番号 89_0155)

計測作業日 令和2(2020)年12月22日
製図年月日 令和3(2021)年02月18日

付記:「踏み木」の角度について
現状は縄で吊り上げられており、想定復元した



天理参考館蔵の大和機と熟覧、実測の様子。2020年12月22日、2階展示室にて。(写真撮影と画像使用の許可は取得済)

----- Monthly Data -----

【天理やまのべ木綿庵】(問い合わせ件数 令和3年1月24日～令和3年2月23日)

岩手県1、千葉県1、東京都1、神奈川県1、大阪府1、沖縄県1

【H.A.M.A. 木綿庵】(令和3年1月24日～令和3年2月23日)

メールを含む各種相談件数6、綿畑や作業場の見学を兼ねた事前申込済来庵者数4件4名



《綿の栽培記録 2021》－ 令和3年度版 その1－

天理市乙木町における梅田の感覚的観測データです。○=晴れ。△=曇り。×=雨。○/×=晴のち雨。○|×=晴時々雨。△:×=曇り一時雨。1月26 ○|△、27 ×/○、28 △|○、29 △|○、30 △|○、31 △|○、2月1 △/×、2 ×/○、3 △|○、4 △|○、5 ○、6 ○、7 △|○、8 ○、9 △|○、10 ○、11 ○|△、12 ○|△、13 ○、14 ○、15 ×/△、16 ○|△、17 雪/△、18 △|○、19 ○|△、20 ○、21 ○、22 ○、23 △、24 ○、25 △/○。

2021年度版の綿の栽培記録を開始します。まずは土起こしからです。1月初旬、1号、5号、7号畑のマルチを外し、綿木の根を抜きました。1号畑では、綿畝に廃菌床と落ち葉をすきこみました。

写真左から：7号畑の綿畝の様子。右側の畝の綿木の根を集めたところ。紅梅の剪定枝と約10分後の発色状態。。。



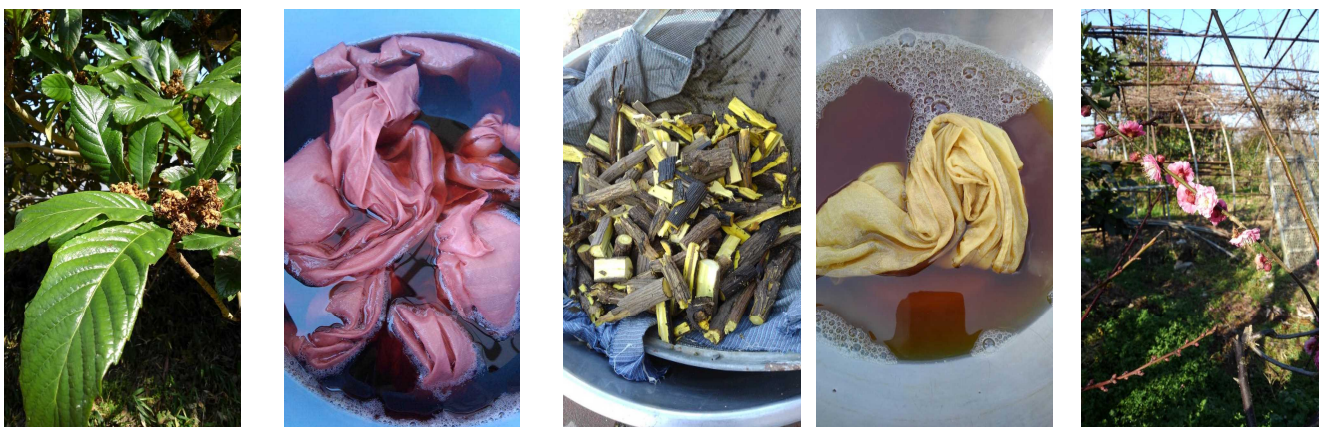
《草木染め：紅梅の剪定枝染め — 令和3年2月14日》

同じ乙木町内に小さな梅林があります。その片隅に積まれていた紅梅の剪定枝を分けていただき、染めてみました。剪定枝3.6kgに水250を加えて約90分煮沸。1番液のみを利用。焼きミョウバンでは発色せず、綿木の灰汁で鮮やかに発色。その後染液に12時間浸け込むことで一層濃く染まることがわかりました。

《草木染め：ビワの葉染めと、南天の枝染め — 令和3年2月24日》

ビワの葉と南天の枝で染めてみました。ビワの葉1.7kgに水100を加えて約30分煮沸。2番液まで利用。南天の枝は長さ2cmほどに切り割り、1.3kgに水30を加えて約20分煮沸。3番液まで利用。ビワの葉からは鮮やかな赤系色が、南天の枝からは渋い黄色を抽出することができました。ビワの葉染めでは、浸け込み時間と発色の関係を調べたところ、30分では発色せず、約1時間で赤系色に染まりはじめ、3時間でさらに色が濃くなりました。その後18時間浸け込みましたが、3時間以降はほとんど発色に差はありませんでした。

写真左から：ビワの葉、約18時間後の発色状態。南天の枝、約1時間後の発色状態。紅梅の枝。



【綿の加工の作業記録】（梅田 1 人の作業量）

- 糸車を用いての糸紡ぎ量（和綿：平成30年, 2018年産。丹羽正行氏による打ち綿）
1月24日～2月23日（作業実日数15日） 糸の総量45.6g（12.2匁） 総時間170分（2時間50分）
※1分間≒0.268g 1時間≒16.1g（4.3匁）

【研修等の記録】

- 令和3年02月20日 天理大学附属天理参考館にて共同展「天理山の辺の古墳」見学。
- 令和3年02月21日 ボーケン品質評価機構に、2020年産繰綿を30検体送付。綿の品質検査を依頼する。
- 令和3年02月22日 野菜や花の苗卸専門農園見学、栽培管理工程について案内いただく（天理市岩室町）。
- 令和3年02月23日 丹羽ふとん店の丹羽正行氏に綿打ち依頼。2019年産和綿白2.3kg、和綿茶2.9kg送付。